

編集後記：私は「天気」編集委員として、主に毎月定例の気候情報のコラム「大気大循環と世界の天候」の編集を担当しています。この「大気大循環と世界の天候」では、毎月の平均的な大気循環場の特徴のほか、世界の異常天候の特徴をコンパクトにまとめています。ただ、このページに掲載されている平均天気図は、読者の方々にとって普段目にする機会があまりなく、少々馴染みにくいかもしれません。そもそも平均するってどういうことでしょうか？どう解釈したらよいのでしょうか？といった質問を個人的にいただいたこともあります。

長期間（ここでは約2週間以上とします）続く気象現象の要因分析にあたり、気象庁では、日々の天気図を用いて現象の推移を調べるほか、対象とした期間、もしくはその期間中において数日間ごとに平均した天気図を用いて解析を行っています。この平均天気図では、日本のはるか西から伝わる偏西風の蛇行や、熱帯

域での対流活動による影響など、日々の天気図ではまづ追うことができない現象をきれいに浮かび上がらせることができます。平均天気図を用いた解析は、異常気象の要因分析においてとても重要です。

平均天気図を見ることの有効性をより多くの方に知ってもらい、その利用を広めることは、気候情報の利活用促進における1つの大きな課題であると感じています。気候情報を担当する「天気」編集委員として、「大気大循環と世界の天候」をより読みやすく馴染みのある記事にしていきたいですし、気候情報の積極的な発信を心がけていきたいです。なお、気象庁ホームページの「気候系監視速報」(<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>)に、大気循環場及び世界の異常天候について詳しい情報が掲載されていますので、こちらも是非ご覧ください。

(竹村和人)